

[26-4]

『Daily Activity Survey(生活行動調査)の分析について』

小池

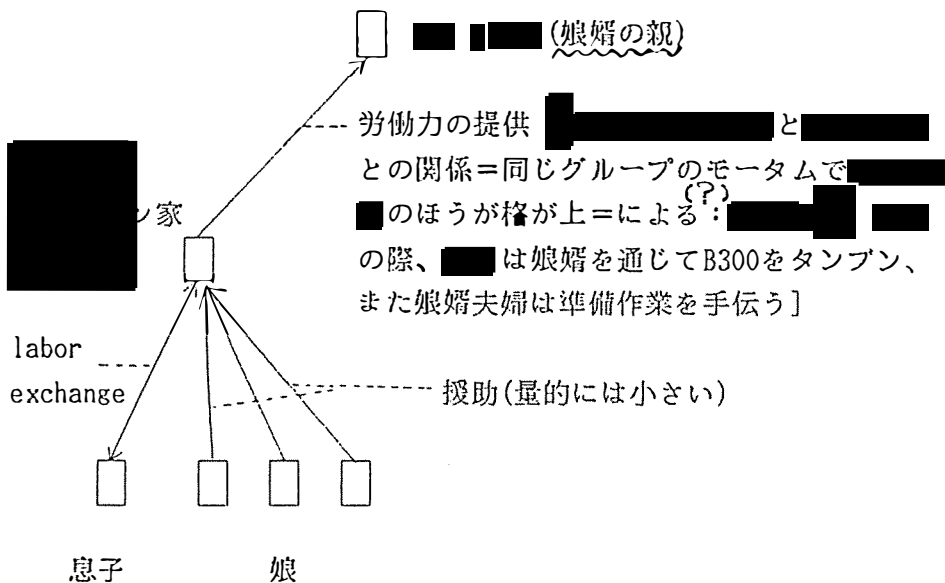
I. 現在の分析指針：

個人、家族を対象として分析された結果（一日の生活時間、季節性、life spaceなど）を「今を生きる」生活主体（個人、家族）を包みこむ社会関係の網の目のなかでとらえなおすこと。また、その社会関係の網の目（ネットワーク）、それ自体を把握すること。

II. いくつかの分析結果：

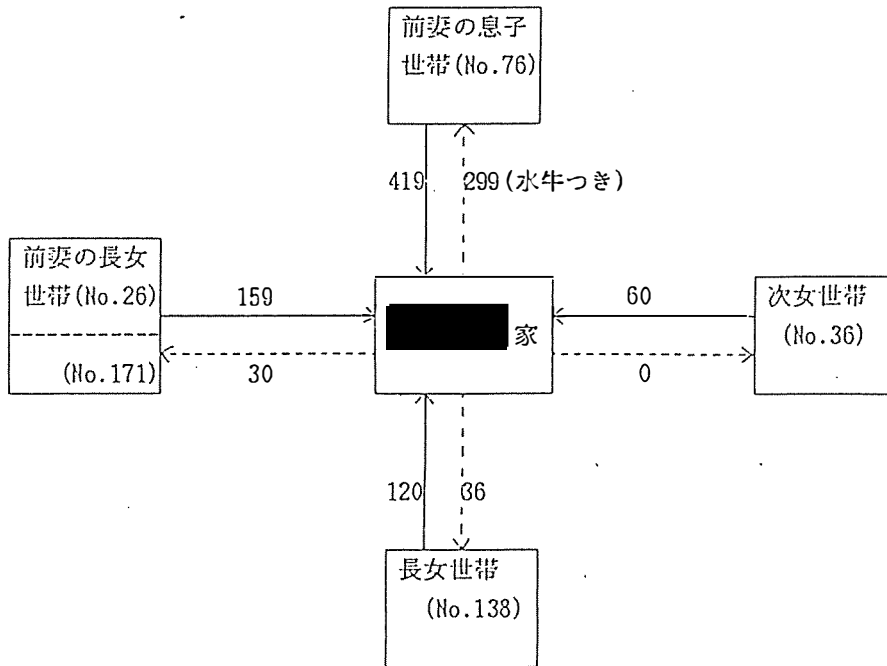
1. 世帯間の労働力のやりとり（稲作）

\* ■■■■ 家の場合（図1参照）

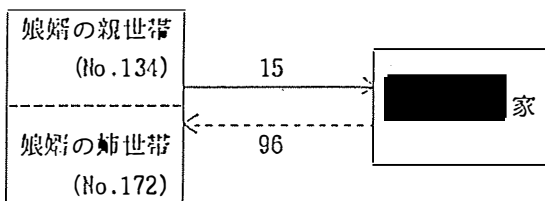


\*\*共同作業は近親間の交際機会としての意味ももつ：田植、刈り取りの共同作業日（世帯外労働力が3人・時間以上の日）14日のうち9日では、世帯外労働力の存在が作業進行上であまり意味がない（自家労働力で十分こなせる面積の作業しか行っていない）。

図1. 稲作における近親世帯と[ ]家との間の労働力のフロー



\*\*\* 夫 (同居娘婿) 方 \*\*\*



—————→ 近親世帯から[ ]家へのフロー

- - - - -→ [ ]家から近親世帯へのフロー

注記. 数字は労働時間を示す。  
単位は10分。

2. 世帯間の物のやりとり・・・

必ずしも「交換」ではない（非市場性をもつ）。

A. データ：毎日の家計記録（                    家と■■                    家のデータが使用可能）、以下、                    家の事例を中心に述べる。

B. ケース数：特定の人へ、または特定の人からの一品目の支出または受け取りを1ケースとすると、約130ケース、関係世帯数、約30戸。（調査日数：245日）

C. 品目：日常的な食生活にかかわるもの（表1参照）

D. 特徴：

a. 近親世帯7戸、隣人世帯1戸との間で相対的に多くみられた。農業での共同作業が時間的に多い（ゆえに農業上の互助関係にあった）世帯。

b. 農業と密接に関連した生活事象が契機となることがある。

（例）・・・表2a, 2bを参照

- ・息子世帯-----田植作業の労働交換(7.25~8.15)---->極めて頻繁
- ・前妻の長女の長女世帯-----稲刈時に子供同志を中心とする世帯間のつきあいが強まる(耕作水田が隣接しているため)  
----->やや集中
- ・隣人世帯-----                    家が稲刈、脱穀を手伝い(12.22~1.7)  
No. 4 ----->やや集中
- ・■■                    家と                    家-----畑地での共同労働(9.9~10.19)  
----->頻繁

農作業を手伝ってもらったお礼としてのもの（例えば隣人世帯からの4カツラの米）が含まれるが、それだけではない。農業を契機とする世帯間の結合は、物のやりとりによってさらに強化されている側面がある。農家から農家へ送られる物は、農業に関連した日常生活上の「交際費」的な意味をもっていると考えられる。

表1. 現物交換に供される品目 (上位5位まで)

順位	家 --> 他世帯 品目 頻度	他世帯 --> 家 品目 頻度
	%	%
1	ハルヤ 24(32.9)	魚 8(13.6)
2	トウガラシ 11(15.1)	チラー 5( 8.5)
3	タケノコ 4( 5.5)	コメ 5( 8.5)
4	コメ 4( 5.5)	チタ肉 4( 6.8)
5	イモ、Phak Kad 4( 5.5)	ハクチ、ハクチ、 サザ、キュウリ 3( 5.1)
小計	51(69.9)	34(57.6)

表2a. 短期間に集中した現物交換

日付	家 --> 他世帯	他世帯 --> 家
<No.76>	息子世帯	
7.25	ハルヤ(2)、タケノコ(3)、トウガラシ(7kg)、 チラー(7)	-----
7.26	トウガラシ、タケノコ	チラー、白米、乾燥魚
7.28	ハルヤ(1)	チタ肉(1ビキ)
7.29	ハルヤ(2)	チタ肉(2キル)
7.30	タケノコ(4)、ハルヤ(1)、チラー(7)	(淡水生の)エビ(2杯)
8.02	ハルヤ(2)	チタ肉(3キル)
8.06	トウガラシ、タケノコ	ランゲタン
8.07	ハルヤ(7)	コンコク(1??)
8.10	ハルヤ(2)	-----
8.14	ナス(17kg)	-----
<No.171>	前妻の長女の長女世帯	
11.29	タケ(1??)	-----
12.11	ハルヤ(1??)	ハクチ(1タハ)
12.13	'phak poep'(17kg)	ハクチ(1タハ)
12.20	ハルヤ(2kg)	ハクチ(1タハ)
<No.4>	隣人世帯	
12.22	-----	サザ(2タハ)
12.25	ハルヤ(2kg)	サザ(2タハ)
12.26	ハルヤ(1kg)	サザ(1タハ)
1.08	チタ肉(1ビキ)、ハルヤ(1kg)	コメ(4カソツ)

表2b. 短期間に集中した現物交換

日付	家 --> 家	家 --> 家
8.17	トウモロコシ(?)	-----
8.26	トウモロコシ(?)	-----
9.02	トウモロコシ(?)	-----
9.05	マスクメロン(?)	サザ(?)
9.08	-----	キュウリ(0.5kg)
9.12	-----	トウモロコシ(?)
9.20	-----	トウモロコシ(?)
9.27	-----	トウモロコシ(?)
9.30	カエル(0.2kg)	-----
10.05	-----	魚(0.1kg)
10.06	-----	魚(?)
10.17	マッシュルーム(?)	-----

図2. 一日の作業パターン (田植) - 家

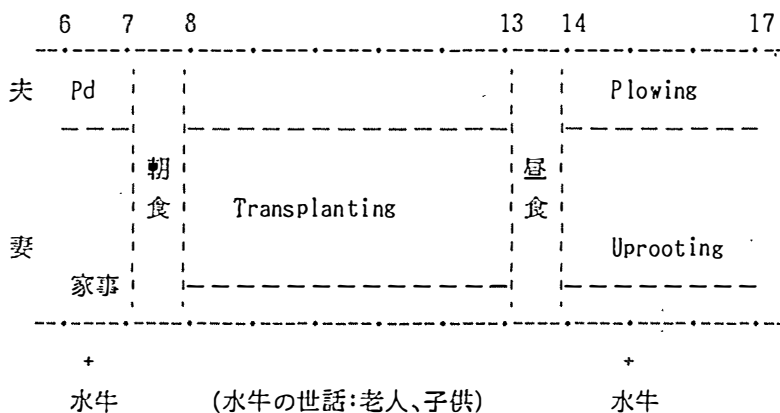


表4. 家とDHの親族世帯とのHNK

作業種別	作業日数と労働力		HNK日	作業日
	家	親族世帯		
田植	23日*2人	9日*2人 (主に )	4日	28日
刈り取り	22日*2人	34日*2人 (主に )	22日	34日
合計	45日*2日	43日*2人	26日	62日

c. 集落内での日々のつきあいのなかの互助は、物を贈るという行為の背後に存在しない -----> 農業での共同(働)と物のやりとりとの直接間接の結びつきのほうが強い

※ [ ] 家の生活場面に頻繁に登場する世帯 (7戸)

(前妻の) 娘世帯3戸  
+  
娘婿の姉世帯2戸  
-----> 農業での共同作業あり -----> 農業関連の援助へのお礼を含め物のやりとりが相対的に多い(表3)。

世帯主の弟の世帯  
+  
隣人世帯 (No.2)  
-----> 農業での共同作業なし -----> 物のやりとりはほとんど記録されていない。

d. 近隣村間の物のやりとり

[ ] 家のほうが [ ] 家と比べてやや多い(5ケースと2ケース) -----> 村長がもつ生活行動特性として、村内は言うに及ばず、近隣村までも広がる社会関係の広さがあるか?

3. 田植作業の実態 ----- 刈り取りと比べて作業共同(女性労働力中心)へのプレッシャーが大きい

A. 図2に田植時の作業パターン(男1, 女1の労働力の場合)を時刻上へ模式的に示す [ ] 家でも同様のパターンが見られる] -----前提

B. 仮に田植作業の実働率を1とすると、10時間で約900m<sup>2</sup> 田植がなされる。-----> 900m<sup>2</sup>の耕起を3時間で行うのは容易(実働率0.6でよい)。だが、田植直前にある苗取は作業進行上のネックになる(3時間では実働率1.7が要求される)

※ ここという実働率は、休みなしで働いたときの作業スピード = 1 としたものである。

表3. 近親世帯との現物の交換

日付	家 --> 他世帯	他世帯 --> 家
<b>&lt;No. 26&gt; 前妻の長女世帯</b>		
7.22	ハハイヤ(5)	-----
7.30	フラーン(5)	-----
8.10	稲の苗(14マツ)	-----
10.15	トウガラシ(2杯)	ホップ・ユーン
12.04	-----	魚(0.2kg)
12.07	ハハイヤ(2kg)、Phak Kad(1タハ)	
3.05	ウルフ米(1ハーブ)	モチ米(1ハーブ)
<b>&lt;No. 36&gt; 次女世帯</b>		
7.20	-----	白米(1リットル)
1.10	-----	魚(0.5kg)
1.12	-----	サツマイモ(2カン)、オハルチン(1カン)、砂糖(1kg)
<b>&lt;No. 138&gt; 長女世帯</b>		
8.20	マスキメロン(4)、トウモロコシ(2??)	-----
11.26	Phak Kad(1タハ)	フラーン(0.3kg)
12.04	ワケギ(1タハ)、'kaem khon'(1タハ)	魚(0.2kg)
12.23	-----	魚(0.2kg)
1.06	-----	Phak Kad(2タハ)
<b>&lt;No. 172&gt; 娘婿の姉世帯</b>		
7.22	ハハイヤ(7)	-----
8.14	-----	ハチマ(3??)、マスキメロン(1)
8.17	-----	ナス(17コロ)
10.08	ハハイヤ、トウガラシ	'kra tip khao'
11.22	-----	フラーン(0.5kg)
1.16	Phak Kad(1タハ)	ナメ(1)
<b>&lt;No. 47&gt; 娘婿の姉世帯</b>		
7.19	ハハイヤ(3)	フラーン(1kg)
8.17	-----	キュウリ(10)
8.26	-----	キュウリ(6)
8.28	-----	キュウリ(6)

## C. Bの共同作業のあり方への影響

・田植時期において、実際に妻が苗取に費やした時間は夫が耕起（2回目）に費やした時間の約1.6倍（          家）、2倍（          家）になっている。

・田植に世帯外労働力を利用するとき、苗取をセットにして考える必要が生ずる。ゆえに、          家が労働交換をした息子世帯からの労働力（時間）は、耕起：0，苗取：17時間50分である。また、          家はNSBの田植時に雇用労働力を用いているがいずれも女性である。

### 4. HNKの実態（          家とDHの親族世帯の事例--HNK Baeng Kan Kin） 表4を参照

・労働配分・・・等しくなるように、労働力の割当て（親族世帯のほうが労働力が豊富）、作業スケジュール（両世帯とも他所に耕作水田をもつ）が組まれる。

・共同作業・・・とくに田植時期で少ない（第一期：親族世帯が担当、          家はDE耕作、第二期：          家が担当）。刈り取り時期で          家がNSBの作業から抜けているのはDEでの収穫のため。

## III. 現在進行中の分析、作業（データ入力）

### 1. 行動領域別（労働中心）、メンバー別の社会関係の広がり

----全体のイメージは須羽のレジユメ---->「稲作が中軸をなす？」

### 2.           、          、          家「だれと」データの 入力（目標：今年度中）